

## 県内にも悲しみ広がる

# 「憧れのスターだった」

トップリーグの神戸製鋼コベルコス  
ティールーズの総監督時代に高知県を  
幾度か訪れたこともある平尾誠一氏。  
母親は本県出身で、平尾氏も2012  
年に県観光大使に就任するなど浅から  
ぬ縁があった。「ミスターラグビー」の  
突然の訃報に県内も驚きと悲しみに包  
まれた。

「僕ら世代がラグビーを始めたの  
は、平尾さんとか（早稲田大出の）本  
城（和彦）さんの活躍があったから」  
そう話すのは土佐塾高ラグビー部の西  
村保久監督。平尾氏とは同じ京都府出  
身。学年が違ったため同じフィールドで  
プレーしたことはないが、「高校は僕が  
東山で、平尾さんが伏見工。大学は大

阪体育大と同志社。ずっとライバル校  
の先輩だったけど、平尾さんのプレー  
はずばぬけていた」。

トップリーグの試合が春野陸上競技  
場であるたびに食事を共にした。「物静  
かな方なんですけど、普通の人が話す  
のとは一言一言が全然ちやいました  
ね。例えば『若手発掘のための新しい  
プロジェクトをやろう』ってなっても  
説得力が違っていた。育成に力を入れ  
ていたことに触れ、また若いのに……  
本当に惜しい人を亡くしました。喪失  
感は大きい」。

「一になって来たでしょう。ほんで男前  
やから（練習の）見物にもたくさん  
人が来た」と当時を振り返る。  
「寮を歩き来して遊んでね。酒も飲  
んだけど、（平尾は）最後まで物静か。  
ああいうのを紳士というんやろうな  
あ。懐かしそうに振り返ったが、これ  
からのラグビー界を背負って立つ人材  
でした。寂しいし、残念です。早過ぎ  
る別れを惜しんだ」。

（井上真一）